

平成 17 年度政策検討ワークショップ開催概要

< 第 1 回 >

日時

2005 年 10 月 2 日 (日) 10:00 ~ 16:30

場所

西湘地域県政総合センター 3F 会議室

参加人数

51 名(各チームグループリーダー、厚木事務局、横浜事務局)

テーマ

「丹沢大山自然再生基本構想(たたき台)」作成のための議論
(景観域別の現状・課題の整理、調査の成果の整理、景観域ごとの連関図の作成、再生目標の設定、等)

プログラム

10:00 ~ 11:00 趣旨と資料説明 (羽山伸一 / 政策検討ワーキンググループ座長)

11:00 ~ 14:30 分科会での討議 (途中、1 時間の休憩挟む)

分科会 1 : ブナ林の保全・再生

分科会 2 : 希少動植物の回復、外来種の除去

分科会 3 : 溪流環境の保全・再生 (森林生態系の保全・再生)

分科会 4 : 地域再生、自然公園の適正利用及び環境教育

14:45 ~ 16:00 全体討議

各分科会の議論内容の報告と全体での議論。

16:00 ~ 16:30 まとめ (羽山伸一)

概要

第 1 回の政策検討ワークショップは、各調査チームリーダーと厚木・横浜事務局を中心とした行政担当者を対象とし、「丹沢大山自然再生基本構想(たたき台)」作成に向けて、「景観域別の現状・課題の整理」、「調査の成果の整理」、「景観域ごとの連関図の作成」、「再生目標の設定」等について議論をした。

分科会では、各特定課題(「ブナ」「希少種・外来種」「溪流」「地域再生・オーバーユース)」についての集中的に議論し、それぞれの課題における問題点と目指す方向性が明らかになった。また、全体討議では、「景観域」、「再生手法」、「対象範囲(流域一貫について)」など前提となる定義についても、意見交換が行われた。

< 第 2 回 >

日時

2006 年 2 月 11 日 (土) 10:00 ~ 17:00

場所

西湘地域県政総合センター 3F 会議室

参加人数

113 名 (調査団員、実行委員、関係部署担当者)

テーマ

丹沢大山総合調査の関係者間での調査結果の共有と、「丹沢大山基本構想(素案)」の方向性の議論。

(要因関連図、再生目標、達成目標、施策・事業およびその評価基準等の検討)

プログラム

10:00 ~ 10:30 趣旨・すすめ方の説明 (羽山伸一)

10:30 ~ 12:00 8 つの特定課題の説明

・ブナ林の保全・再生

(河野吉久 / 水と土再生調査チーム・大気グループリーダー)

・人工林の再生

(富村周平 / 地域再生調査チーム・山のなりわい複合戦略グループリーダー)

・自然資源・地域資源を活かした地域の自立とつながりの再生

(糸長浩司 / 地域再生調査チームリーダー)

・溪流生態系の保全・再生

(鈴木雅一 / 水と土再生調査チームリーダー)

・シカの保護管理

(伊藤雅道 / 生きもの再生調査チーム・シカ影響グループリーダー)

・希少種の保全・回復

(勝山輝男 / 生きもの再生調査チームリーダー)

・外来種の除去

(羽澄俊裕 / 生きもの再生調査チームリーダー・外来種対策グループリーダー)

・自然公園の適正利用

(糸長浩司 / 地域再生調査チームリーダー)

12:00 ~ 12:30 分科会のすすめ方について

13:30 ~ 15:20 分科会での討議

(要因関連図、再生目標、達成目標、施策・事業およびその評価基準等の検討)

分科会 A : 自然再生のすすめ方や環境教育について

分科会 B : ブナ衰退や溪流の問題について

分科会C：シカや森林の問題について

分科会D：希少種や外来種について

分科会E：オーバーユース問題や地域の自立的再生について

15:30～17:00 全体会

各分科会の議論内容の報告と全体での議論。

概要

第2回の政策検討ワークショップは、調査団関係者、実行委員、関係部署担当者を対象とし、調査結果の共有と、「丹沢大山基本構想（素案）」の方向性についての議論を行った。

午前の全体会では、8つの特定課題それぞれについて担当者が短いプレゼンテーションをし、参加者全員で丹沢全体の課題と問題を共有した。午後は、5つの分科会に分かれ、「要因関連図の確認」、「再生目標の確認」、「達成目標の設定」、「施策・事業およびその評価基準等の検討」について、調査チーム・グループの枠を越えて議論が行われた。最後のまとめの全体会では、各分科会での議論の共有と、議論しきれなかった部分についての意見募集で締めくくられた。

< 第3回 >

シンポジウム「丹沢再生はじまる～私たちは、何をすべきか、何ができるか～」の午後の部として開催。

日時

2006年3月4日（土）13:00～16:00

場所

県厚木合同庁舎分庁舎（愛甲教育事務所）講堂

参加人数

250名（調査関係者、一般県民）

テーマ

「丹沢再生」の方向性と「丹沢大山基本構想（素案）」についての説明と議論。

プログラム

13:00～13:10 趣旨説明

「調査結果から政策へ～丹沢大山が抱える課題とこれから」（木平氏）

13:10～13:55 森の再生

- ・ブナ林の保全再生（勝山輝男）
- ・人工林の再生（糸長浩司）
- ・シカの保護管理（伊藤雅道）

13:55～14:25 溪流の再生

- ・ 溪流生態系の保全（鈴木雅一）
- ・ 生きものからみた溪流生態系の保全（羽澄俊裕）

14:35～15:50「総合討議」

コーディネーター：木平勇吉

パネリスト：谷川潔（環境省）、山中正実（知床財団）、羽山伸一、勝山輝男、鈴木雅一、糸長浩司、原慶太郎、伊藤雅道、羽澄俊裕

15:50～16:00 おわりのあいさつ（青木淳一／調査団長）

概要

第3回政策検討ワークショップは、シンポジウム「丹沢再生はじまる～私たちは、何をすべきか、何ができるか～」の午後の部として行われた。

午前の部では、環境省の谷川潔氏より、現在の自然環境行政の総合的施策と、その中で自然再生の位置づけ、全国の事例の紹介があり、知床財団の山中正実氏より、知床での取組について、民間組織である知床財団が主体となった自然再生の事例の紹介があった。また、政策検討ワーキンググループの羽山伸一リーダーからは、丹沢が目指す自然再生の方向性と、「丹沢自然再生基本構想（素案）」の説明があった。

午後の部の第3回政策検討ワークショップでは、前半に、「森の再生」と「溪流の再生」という2つのテーマに分け、特定課題についての報告を行った。「森の再生」では、高標高域の「ブナ林」と中標高域の「人工林」、それらにまたがる「シカの保護管理」について、「溪流の再生」では、その定義と山の上から下までをつなぐものとして、生きものの視点から見た溪流環境についての報告があった。その後、「総合討議」として、質疑応答とパネルディスカッションが行われた。パネリストからは、総合調査の主要なコンセプトである、「順応型」「統合型」「パートナーシップ型」の3つの視点についての補足的コメントがあり、会場の参加者からは、総合調査の結果についての質問や、行政のこれまでの取組と今後の方向性への意見等が、多く寄せられた。